

Ⅳ ローリング調査

1. 調査の概要

○調査の目的 「平成 23 年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究」において、今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて提言された“7つの取組み”の進捗状況と成果を踏まえ、既存事業の有効性について検証を行う。

○調査対象 平成 23 年度の調査研究で掲げられた提言“7つの取組み”に係る全 14 事業

平成 23 年度大牟田市社会教育・生涯学習まちづくり基礎調査研究の提言 ～ 今後の社会教育・生涯学習の振興に向けて ～

(1) 学びたいことを学ぶ仕組みづくり

- ①市民自らが行う取組み
- ②社会教育機関等が行う取組み
- ③一時保育を行う講座の充実

(2) 自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり

- ①仕事のやりがいや魅力を伝える場をつくる取組み
- ②青年自身が活躍の場をつくり出す取組み
- ③高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み

(3) ふるさと大牟田を知る取組み

(4) 市民に身近な場所で行う事業の拡充

(5) 学習情報センター機能の拡充

- ①学習相談の窓口としての機能の強化
- ②わかりやすくて確かな情報提供

(6) 職員研修の充実

- ①社会教育機関の職員に必要な能力の向上
- ②「聴く」活動

(7) 地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～

- ①地域の絆を育む取組み
- ②災害に備える取組み

(計 14 事業)

○調査方法 対象事業の所管課に対する照会（調査票及びヒアリング）

○調査期間 平成 30 年 7 月 3 日～7 月 31 日（ヒアリング 7 月 31 日～8 月 14 日）

2. 調査結果

(1) 学びたいことを学ぶ仕組みづくり

① 市民自らが行う取組み〔生涯学習課(生涯学習担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

市民が行っている（行いたい）学習活動の多くは、「趣味・けいこ事」や「健康づくり・スポーツ」に関することです。しかし、「社会の要請」にあてはまらないもの（趣味的な講座等）は、行政が実施する講座等のテーマになりにくいことから、市民の自主的な活動を支援したり、市民との協働によって展開していく必要があります。

そこで、市民が「学びたいことを学べる」ようにするには、行政の事業展開とあわせて、市民自らの取組みの充実が効果的であると考えます。市民自らが関心のあることを学ぶために企画し、講師の選定や会場の確保等のすべてを運営し、学びたいことを学べる場を創出する仕組みとして「大牟田市民カレッジ（仮称）」を創設する必要があると考えます。

【取組状況・実績】

「大牟田市民カレッジ」の創設に向け、その中心的役割を担う人材を養成するために平成 24 年度から 2 か年にわたって『企画者養成講座』（延べ 34 回）を実施しました。

平成 26 年度には「市民カレッジ」を運営するための組織「市民カレッジ運営委員会」が発足し、各種講座を企画して自主事業を展開されるようになったため、同委員会の取組みが円滑に行われるよう自立に向けた支援を行いました。

同委員会は、平成 29 年度から完全な自主運営となり、また、市民へ学習機会を提供するための講座のみならず、社会貢献活動にも取り組むようになったことから、今後の活躍が期待されることです。

【課題等】

所期の目的は達成されましたが、同委員会が市民活動団体としてさらに充実・発展できるように、今後も引き続き必要に応じて支援を行ってまいります。

＜大牟田市民カレッジ事業の経過＞

年度	内 容
H24	大牟田市民カレッジ事業「H24 年度 企画者養成講座」開催(全 15 回・受講者 15 人) (講演、先進地視察、キャッチコピーを考える、講座の企画、プレ講座、次年度の取組み等)
H25	大牟田市民カレッジ事業「H25 年度 企画者養成講座」開催(全 19 回・受講者 21 人) (講座のつくり方、趣意書づくり、プレ講座、先進地視察、市民カレッジの仕組みづくり等)
H26～	○H26 年度に「大牟田市民カレッジ運営委員会」が発足(H26 年 9 月市民活動団体へ登録)。 以後、同委員会の自主事業に対する側面的な支援を行いました。 (交通発展の歴史、フォニックス体験講座、伝説を科学する、アニメ好き集え！等) ○H29 年度に同委員会は完全な自主運営となり、独自で事業の企画立案・実施、財源の確保等を行うようになった。同年、熊本地震の復興支援に係る取組みを実施。 ○H30 年度は 4 講座が実施される予定(同委員会「H30 年度事業計画書」より)

② 社会教育機関等が行う取組み〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

社会教育機関では、趣味や健康づくりに関する事業を、「学びの循環」の入口として展開し、ここに集まった参加者へ「社会の要請」に応じた事業への参加を促し、学習成果を活かす活動につなげるような仕組みをつくることが求められます。

60 歳以上の人を対象に実施している「生涯青春はつらつ塾」の「地域塾」(既存のサークル等が講師を務める講座)の仕組みを応用し、幅広い年齢層を対象に事業を展開し、参加者に対し、「社会の要請」に応じた事業への参加を促すことが必要だと考えます。

まずは、幅広い年齢層の人を対象とする講座の開催について、生涯青春はつらつ塾実行委員会などの関係者と協議を進めていきます。

【取組状況・実績】

平成 23 年度に、生涯青春はつらつ塾実行委員会において、高齢者のみならず幅広い年齢層が学べるよう講座の在り方について協議が行われ、平成 24 年度から、『生涯青春はつらつ塾』にそれまでの「地域塾(高齢者が高齢者に教える)」と「ボランティア講座」に加え、一般成人が学ぶことができる「マナビ塾(高齢者が一般成人に教える)」がスタートしました。

しかし、平成 24 年度で県の委託事業『生涯青春はつらつ塾』が終了したことから、平成 25 年度から、保健福祉部と連携して、高齢者の生きがいづくりや介護予防等を目的とした高齢者生きがいづくり社会参加促進事業『生涯青春まなびの扉』を展開し、そのなかで「マナビ塾」を継続して実施しています。

「マナビ塾」の成果としては、平成 24 年度から平成 29 年度の 6 年間で 36 講座(延べ受講者数 649 人)を実施したことで、29 のサークルが発足し、新規サークルの会員数と指導サークルへの加入者数を合わせると延べ 296 人の新たな学びの場を創出しました。受講者の年齢層は 20 歳代～80 歳代以上と幅広く、また、社会の要請に応じて、パソコンや外国語講座なども開催しました。

しかしながら、『学習成果を活かす点』においては、福祉施設への慰問やイベントの出演など、社会や地域づくりに貢献しているサークルは 3 団体で、全講座数の 1 割にも達していない状況です。

【課題等】

今後は、市民が学んだ知識・技能を社会へ還元できるよう、社会教育機関において、①“地域の課題や社会的ニーズ”に即した講座の展開、②講座終了後のサークルに対する“フォローアップ”(学んだ成果を活かす場の確保、サークルの自立支援等)の強化、③関係課・機関などと連携してボランティア及び市民活動の登録制度とリンクさせることなど、“きっかけ”づくりから“実践”に至るまでの一連の手法や仕組みを確立させることが重要と言えます。

<高齢者生きがいづくり社会参加促進事業『生涯青春まなびの扉』 マナビ塾 >

年度	講 座 名	受講者	講座終了後の成果	担当 地区館
H24	中央陶芸工房～はじめての一步～	20 人		中央
	暮らしを潤すハーモニカ講座	11 人	サークル発足 (6 人) ★デイケア施設等訪問	三川
	ピラティスで心も体もリフレッシュ (午前)	15 人	サークル発足 (8 人)	勝立
	ピラティスで心も体もリフレッシュ (夜間)	20 人	サークル発足 (10 人)	勝立
	男子厨房に入ってみよう講座	15 人	サークル発足 (9 人)	吉野
	お手軽・簡単パソコン講座 ～Word から始めよう～	20 人	サークル発足 (12 人)	三池
	パン作り講座	15 人	2 サークル発足 (計 13 人)	手鎌
	心を伝える絵手紙 (入門編)	17 人	サークル発足 (12 人) ★一人暮らし高齢者訪問活動	駿馬
H25	はじめての編み物入門講座	20 人	サークル発足 (15 人)	中央
	気軽に散歩でスケッチを!	21 人		三川
	ちょっとおしゃれにランチタイム ～楽しくパンづくりに挑戦～	18 人	サークル発足 (8 人)	勝立
	暮らしを豊かに～パソコン学び塾～	20 人		吉野
	手作りパンでほんわか幸せ気分♪	16 人	サークル発足 (7 人)	三池
	ものづくりで仲間作り! 初めてでも楽しい陶芸教室	14 人	指導サークル加入 (6 人)	手鎌
	生活を彩るフラワーアレンジメント	23 人		駿馬
H26	暮らしを彩る“花”講座	11 人	サークル発足 (5 人)	中央
	初心者歓迎!! 基本のお料理教室	15 人	指導サークル加入 (7 人)	三川
	暮らしに役立つラッピング講座	16 人	サークル発足 (10 人)	勝立
	初心者のためのエクセル講座 ～目指せ! キャリアアップ～	20 人	サークル発足 (9 人)	吉野
	癒しの苔玉とミニミニ盆栽	20 人	サークル発足 (22 人)	三池
	はじめてさんのやさしいパン作り講座	15 人	サークル発足 (6 人)	手鎌
	ふっくら楽しいパンづくり	20 人	サークル発足 (13 人)	駿馬
H27	動きしなやか太極拳入門講座	19 人		中央
	心と体を美しく! BEAUTY YOGA	35 人	サークル発足 (15 人)	三川
	初心者のためのネイル講座～必ずなれる指先美人～	16 人	サークル発足 (8 人)	勝立
	エクセルを活かそう! ～初級からのステップアップ編～	15 人		吉野
	しゃべりたくなる♪おもしろ落語講座	18 人	サークル発足 (10 人) ★年 2 回寄席開催	三池
	はじめてさんの海外旅行英会話講座	17 人	サークル発足 (11 人)	手鎌
	日本を美味しくいただきます! 基本の漬物レシピ	22 人		駿馬
H28	クラシックギターでやわらかな調べを奏でよう!	15 人	サークル発足 (5 人)、既存サークル加入 (2 団体、計 6 人)	中央
	手作りって楽しい! 初心者からのスイーツ講座	18 人	2 サークル発足 (計 15 人)	三川
	はじめよう! 気軽に学べる中国語講座	23 人	2 サークル発足 (計 17 人)	勝立
	私でも大丈夫♪「ワンランク上のビーズアクセサリー」	22 人	サークル発足 (12 人)	三池
	誰でもお手軽クッキング講座	10 人		駿馬
H29	大人がときめく おりがみ講座	20 人	指導サークル加入 (4 人)	吉野
	まずはチャレンジ!! お料理基本 (き・ほ・ん) 講座	17 人	サークル発足 (7 人)	手鎌

③ 一時保育を行う講座の充実〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

今回の調査では、子育て中の人から、子どもが成長したら働くことができるよう、一時保育のあるキャリアアップ講座を望む声が聞かれました。子育て中の人々が学びたいことを学べるように、各事業において、一時保育ができるような環境を整えることが必要です。

この環境づくりの第一歩として、受け入れる子どもの年齢・人数、保育士の人数等、一時保育を行う際の一定の基準等を作成し、基準に基づいた一時保育のある講座等の充実を図り、子育て中の市民の学習活動を支援していきます。

【取組状況・実績】

平成 24 年度に「一時保育マニュアル作成プロジェクト」を立ち上げ、2 か年にわたって地区公民館の事業における一時保育の対応について協議・検討を行い、子育て中であっても学習活動を行えるよう、一時保育に関するマニュアル（子どもの年齢・人数、保育者の数、謝礼金、一時保育利用者の負担金等）を作成しました。

【課題等】

平成 26 年 4 月 1 日以降に実施する事業（家庭教育支援に関する事業及び一時保育の希望者が想定される事業）に適用していますが、市民からの要請がなかったことから、家庭教育の支援に関する事業を除き、これまで一時保育を行った実績はありません。

しかしながら、近年、地区公民館の一般成人向け講座や他の社会教育施設において市民から一時保育に関する問合せや要望があったことから、今後は地区公民館のみならず他の社会教育施設も含め、保護者が参加しやすい時間帯などの配慮や、一時保育の対応について検討し、子育て中の市民の学習活動の場・機会が確保されるよう努める必要があります。

また、地区公民館で開催される講座に一時保育があること自体、市民に広く認知されていないため、講座の参加者を募集する際は、必要に応じて一時保育ができる旨を明記し、周知を図ることも必要です。

<経過>

年度	内 容	
H24	一時保育マニュアル作成プロジェクト会議 (H24 年 6 月～H25 年 2 月 / 9 回開催)	【検討内容】 ・一時保育の報告、問題点の把握 ・一時保育に必要な保育者、保育者への謝礼の検討 ・保育士を確保するための名簿作成 ・保育士への依頼書等参考様式の作成 ・家庭教育事業以外での一時保育の受講者負担 ・一時保育を行う事業 など
H25	一時保育マニュアル作成プロジェクト会議 (H25 年 5 月～H25 年 8 月 / 3 回開催)	
H26～	一時保育マニュアルの運営開始(H26 年 4 月 1 日～)	

(2) 自らの特長を活かした活動を支援する仕組みづくり

① 仕事のやりがいや魅力を伝える場をつくる取組み〔生涯学習課(生涯学習担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

50 歳代以下、特に 40 歳未満の比較的若い年代は、職業上必要な知識・技能・資格取得に関することを学習していることが分かりました。

本市が行っている「メニューいろいろまちづくり出前講座」（行政職員が、学びたい市民のもとへ出向き、市政の説明や実習を行う）は、市民へ日常生活に役立つ知識を提供するとともに、職員の専門知識の再確認や、プレゼンテーション能力を高めることに役立っています。

そこで、この仕組みを応用して、民間事業者が持つ専門知識や技術、仕事にかける思いを市民に伝える「出前講座企業編（仮称）」について検討を進めます。

【取組状況・実績】

※1

平成 28 年度に「大牟田市生涯学習まちづくり推進本部」において、“企業による出前講座”（市民の受講料は無料）の実現に向け、具体的な協議・検討が行われました。大牟田商工会議所の協力を得て参画企業を広く募り、平成 29 年 5 月から企業出前講座「がんばる地場企業」が 8 社・14 メニューでスタートしました。

平成 29 年度は、年間に 21 回の講座が開催され、延べ 485 人の市民が企業等から専門的な知識・技能をわかりやすく楽しく学ぶことができました。平成 30 年度は、新たに 3 社が参画し、メニュー数も約 2 倍（27 メニュー）に増え、より充実した内容で事業が展開されています。

【課題等】

生涯学習を推進するうえで、民間企業から多大な協力が得られることは、本市の強みです。当該事業は、『生涯学習社会』（誰もが、いつでも、どこでも学ぶことができ、学んだ成果を活かせる社会）の実現に大きく寄与することが期待されることから、今後は登録企業数やメニュー数の増加を図り、より一層充実・発展していくことが望まれます。

<企業出前講座「がんばる地場企業」>

年度	参画企業（登録企業）	講 座 メ ニ ュー
H29	久留米ヤクルト販売(株)大牟田営業所	「ウン知育教室」／おなかの菌学／おなか元気教室／寝たきり予防に筋力アップ！／脳元気生活！手と脳の密接な関係／免疫力を高めて元気度アップ
	(株)野口印刷所	心構えが人生を変える売れる人・売れない人
	HMS九州	ギターまるわかりセミナー
	(株)白雲社	これからの終活&葬儀セミナー
	(有)グリーンピース磯浜	フラワーアレンジメント等の講習
	海づか	鮮魚のおいしい食べ方、調理法
	信号電材(株)	工場見学／腹話術による交通安全教室
	ジブラルタ生命保険(株)	学ぶ門には福来る！知っ得セミナー

年度	参画企業（登録企業）	講 座 メ ニ ュ ー
H30	久留米ヤクルト販売㈱大牟田営業所	H29 年度と同じ
	㈱野口印刷所	H29 年度と同じ
	HMS九州	H29 年度と同じ
	㈱白雲社	H29 年度と同じ
	㈱グリーンピース磯浜	H29 年度と同じ
	海づか	H29 年度と同じ
	信号電材㈱	H29 年度と同じ
	㈱マルエ産業	まず出来ることから「家庭内事故防止」セミナー／自転車の安全運転講習／介護施設向け危険予知トレーニング／ピンポイントで学ぶ身近な防災対策／エンディングノートから始める楽しむ終活
	ありあけ不動産ネット協同組合	早めの対策が未来を変える！不動産の相続と認知症
	ジブラルタ生命保険㈱	おこづかいが子どもを変える！／介護・医療セミナー／相続セミナー／年金セミナー／知ったク！リタイアメント・ナビ／外貨活用講座
	大牟田ガス㈱	ガスなぜなぜ？豆知識！／ヒートショック事故を防ごう！豆知識講座

※ 1 「大牟田市生涯学習まちづくり推進本部」（事務局：大牟田市生涯学習課）

「大牟田市生涯学習まちづくり推進基本構想」に基づき、“誰もが生涯にわたって、いつでも、どこでも学ぶことができ、その成果を適切に活かすことができる社会（生涯学習社会）”の実現に向けた取組みを市民自ら主体的に推進するための組織です。

経済団体、教育関係団体、福祉関係団体、大牟田市等の団体から推薦された委員及び公募による委員で構成され、本部長は民間人が務めています。

“生涯学習社会”の実現を目指し、「生涯学習ボランティア登録派遣事業（愛称：まなばんかん）」、「市民大学講座」、「企業出前講座」などの取組が行われています。

② 青年自身が活躍の場をつくり出す取組み〔生涯学習課(青少年教育担当・市民活動担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

青年期は、人生の中で輝きのある時期であり、青年の活動は、まちや社会の活力の源ともなります。しかし、今回の調査で、青年が活動する場や機会が少ないことと、青年層に見合った学習情報が少ないことが分かりました。

そこで、青年が活躍の場をつくり出す第一歩として、自らの主張や活動の場を発信する仕組みづくりが必要だと考えます。まずは、青年に身近なブログ、ツイッター、フェイスブックなどを活用した情報発信を行い、青年に情報が届くようにすることが必要です。

そして、新たな情報や活動を知るきっかけを得る場、新たな出会いの場をつくり出しながら、青年が同世代の青年たちや、まちへ情報発信を行う人材を養成していきます。

【取組状況・実績】

青年の社会参加促進などを目的に、平成 23 年度から青年の仲間づくりと交流の場を提供する「青年社会参加促進事業」、青年のスキルアップを目的とした「青年スキルアップ事業」、青年のボランティア活動の機会提供、支援等を目的とした「青年ボランティア活動支援事業」を実施するとともに、活動の場の提供を行っています。

平成 25 年 10 月には、大牟田市民活動等多目的交流施設「えるる」を開設し、市民活動の支援、次世代育成支援とともに、さらなる青年活動の支援及び青少年の健全育成等の推進を図っています。「えるる」開館時には、講座から立ち上がったバルーンアート、料理のサークルなどが開館イベントで活動成果を発表するなど、青年の活動機会の確保について、一定の成果が見られました。

平成 26 年度からは、「えるる」の講座やイベントなどはもとより、「えるる」利用の市民活動団体の活動紹介、地域のイベント情報をフェイスブック、館内の掲示板などで情報発信を行い、青年層への学習情報の発信ならびに活動の場を提供していますが、平成 24 年度以降、講座数、青年の参加率ともに減少している状況です。減少の要因は、少子高齢化、生活スタイルや職業観の多様化など社会的要素が影響していると思われますが、青年層のニーズを把握できなかったことや、学習活動から社会参加への仕組みを構築できなかったことも考えられます。

また、前述の青年教育に関する事業については、現在の若者のニーズに添っていないと判断し一部休止（「青年スキルアップ事業」は平成 29 年度から休止、「青年社会参加促進事業」は平成 30 年度から休止）しており、「青年ボランティア活動支援事業」についても、平成 27 年度と平成 28 年度は連続講座の参加者が見込めず休止しました。

一方、ボランティア活動は若者の関心が高い分野であることや市民活動促進策においても、若者の市民活動への参加のニーズは高いこともあり、平成 29 年度からは、市民活動サポート事業として、大牟田市社会福祉協議会等と連携し講座を実施するなど、若者の市民活動の支援に努めています。

【課題等】

今回の調査研究の一環として実施したインタビュー調査（若者意識調査）では、ボランティア活動や地域活動に関心のある若者の割合が 7 割という高い結果となったことから、青年の活動意欲をまちづくりに活かしていく必要があります。

今後は、青年層へのより効果的な情報発信の手法を検証し、情報発信の強化を図るとともに、青年層が、学習活動を通して、自らが主体的に活動できる機会の提供ならびに社会参加しやすい仕組みの構築に努めていきます。

＜青年教育に関する主な取り組み＞

年度	事業名	内 容
H23	青年社会参加活動促進事業	東日本大震災から学ぶ（8回・延60人） ヨガときどきハーブとアロマ（10回・延146人）
	青年ボランティア活動支援事業	KARAになりきって踊っちゃおう（12回・延137人）
	青年スキルアップ事業	コミュニケーション能力・社会人としてのマナー向上セミナー（1回・40人）
H24	青年社会参加活動促進事業	今年の夏はあなたも浴衣美人に変身（7回・延92人） ココロ踊る J-POP でハモろうよ（8回・延65人） 男女で会話がはずむクッキング教室（8回・延87人） Latte art in Furepi（7回・延66人） 基礎から学ぶペン習字と絵手紙（7回・延18人） Dream サンタへの支援（スタッフ20人・訪問家庭33軒） 第65回成人式の開催（参加者804人）
	青年ボランティア活動支援事業	プチ喜びを自分に人に ネイルアートで女子力アップ（10回・延145人）
	青年スキルアップ事業	コツをつかんでコミュニケーション力アップセミナー・来ていますか社会人（就活）のためのマナーセミナー（1回・24人）
H25	青年社会参加活動促進事業	バスタ DE イタリアン（6回・延42人） フレンズピア閉館記念座談会（1回・50人） Tomo Tomo Café（1回・23人） Dream サンタへの支援（スタッフ19人・訪問家庭48軒） 第66回成人式の開催（参加者722人）
	青年ボランティア活動支援事業	イベント装飾バルーンアート講座（12回・延117人）
	青年スキルアップ事業	スマートフォンでスキルアップ（IT活用講座）（2回・延28人）
H26	青年社会参加活動促進事業	かんたんワンプレートランチ&スイーツ講座（6回・延51人） ヨガで美（実）活（5回・70人） はじめてのハワイアンフラ講座（4回・延22人） Dream サンタへの支援（スタッフ51人・訪問家庭42軒） 第67回成人式の開催（参加者720人）
	青年ボランティア活動支援事業	若者のためのコミュニケーション講座（7回・延29人）
	青年スキルアップ事業	つかみは OK！コミュニケーション力アップ講座（11人） 社会人のための知って得するマナー講座（11人）
H27	青年社会参加活動促進事業	はじめての手作りパンでごほうびカフェランチ（6回・延64人） Dream サンタへの支援（スタッフ15人・訪問家庭39軒） 第68回成人式の開催（参加者609人）
	青年ボランティア活動支援事業	未実施
	青年スキルアップ事業	楽しく学ぶコミュニケーションのコツ（10人） 一歩先行く職場のマナー（11人）
H28	青年社会参加活動促進事業	はじめてのヨガ（5回・延65人）
	青年ボランティア活動支援事業	Dream サンタへの支援（スタッフ11人・訪問家庭10軒）
	青年スキルアップ事業	楽しく学ぶコミュニケーションのコツ（4人） 一歩先行く職場のマナー（5人）
	成人式の開催	第69回成人式の開催（参加者数706人）
H29	青年社会参加活動促進事業	家でカンタンにできる中国料理講座（4回・延17人） バレンタインデー&ホワイトデーに作ろう！お菓子講座（4回・延24人）
	青年ボランティア活動支援事業	九州北部豪雨災害ボランティア派遣及び移動支援（2か所・22人） 大牟田市社会福祉協議会との共同によるボランティア講座（2日・延54人）
	青年スキルアップ事業	休止
	成人式の開催	第70回成人式の開催（参加者数674人）

③高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

高齢化の進む本市では、高齢者が学習成果を活かした活動に取組みやすい仕組みを拡充することが必要だと考えます。

現在実施している『生涯青春はつらつ塾』の「ボランティア塾」は、高齢者が学んだことを学校などで子どもたちへ教え、閉講後に受講者が設立したボランティアグループを地区公民館が支援しています。『生涯青春はつらつ塾』は、福岡県の委託事業を活用して実施しており、この県の事業が平成 24 年度までで終了しますので、本市独自の運営基盤の確立について関係機関と検討を進め、事業の拡充を図ります。

〔取組状況・実績〕

福岡県の委託事業が終了することを踏まえ、平成 24 年度に「生涯青春はつらつ塾実行委員会」において本市独自で実施する事業について検討が行われました。本市の「高齢者保健福祉計画・第 5 期介護保険事業計画」（平成 24～26 年度）の基本目標『生涯現役を目指す自立活動の推進』の一つとして、“高齢者の生きがいづくり”が掲げられていたことなどから、平成 25 年度から、保健福祉部と連携して、高齢者の生きがいづくり、社会参加の促進、介護予防等を目的とした高齢者生きがいづくり社会参加促進事業『生涯青春まなびの扉』がスタートしました。

なお、それまで、高齢者が学んだ知識・技能を人々や社会へ還元する取組みとして開催していた“高齢者のためのボランティアの講座”と“高齢者が身に付けた知識・技能を一般成人へ教える講座（マナビ塾）”は継続して実施しています。

「ボランティア塾」（平成 24 年度まで「ボランティア講座」）は、平成 25 年度から平成 29 年度にかけて延べ 28 講座（延べ受講者数 402 人）を実施し、これまでに 17 のボランティアグループ（177 人）が発足しました。

また、そのうち 11 グループ（118 人）が「生涯学習ボランティア登録派遣事業（まなばんかん）」に登録し、受講者の 21 人が「まなばんかん」の登録団体（3 団体）へ加入しました。

「まなばんかん」の登録団体は、小学校（授業、PTA の支援等）、地域（子ども会、老人会、町内公民館の行事等）、民間施設（医療介護施設の行事等）、公共施設（えるる・つどいの広場）など、市内の様々な場所で幅広く活躍されており、人々の生活や社会に大きく貢献されています（平成 30 年 12 月現在で「まなばんかん」に登録しているグループは 10 団体）。

一方、「マナビ塾」（高齢者が講師を務める講座）については、平成 24 年度から平成 29 年度の 6 年間で 36 講座を実施しました（延べ受講者数 649 人）。その結果、延べ 29 のサークルが発足し、市民の学習活動の場を数多く創出することができました。

〔課題等〕

上記の講座によって、多くのボランティアグループやサークルが誕生しましたが、会員の多くが高齢者であるため、近い将来、高齢化を起因とした様々な問題（メンバーの確保、後継者の育成等）が生じ、グループ・サークルの維持・継続が困難になることが予想されます。

このため、当該事業を今後実施するうえでは、講座終了後に発足した団体が継続して学習活動が行える仕組みづくりや支援の在り方を検討することが不可欠です。

<高齢者生きがいづくり社会参加促進事業『生涯青春まなびの扉』ボランティア塾>

年度	講座名(場所)	受講者	講座終了後の成果	まなばんかん登録年度	担当地区館
H25	自然ガイド養成講座 (中央地区公民館、延命公園等)	15人		—	中央
	竹細工ボランティア養成講座 (三川地区公民館)	15人	指導サークル「竹細工会」加入 (6人)	—	三川
	折り紙ボランティア講座～自分の得意なこと で人もしあわせに！～(勝立地区公民館)	12人	サークル「折り紙鶴の会」加入 (6人)	—	勝立
	習字の時間お助け隊 (吉野小)	13人	ボランティアグループ「習字お 助けクラブ」発足(9人)	—	吉野
	小学校英語授業アシスタント養成講座 (三池小)	15人	ボランティアグループ「Hello Friends」発足(11人)	H25～H26	三池
	美しい音色で感動を！癒しのハンドベル講 座(手鎌地区公民館、特別養護老人ホームこ もれび)	13人		—	手鎌
	昔あそび おまかせ講座 (駿馬地区公民館)	13人		—	駿馬
H26	集まれミシンボランティア in 平原小	14人	ボランティアグループ「こっと んくらぶ」発足(10人)	H26～	中央
	いきいきミシン応援隊(天領小・みなと小)	18人	ボランティアグループ「ソーイ ングサクラ」発足(11人)	—	三川
	茶道ボランティア養成講座 (玉川小)	12人	まなばんかん登録団体「きさら ぎ会」へ4人入会	(H26～H29)	勝立
	習字の時間お助け隊 パートⅡ～倉永小～ (倉永小)	14人	ボランティアグループ「習字お 助けクラブ」へ2人入会	—	吉野
	地域の歴史ボランティアガイド養成講座 (三池小)	10人	ボランティアグループ「三池の 歴史を学ぶ会」発足(8人)	—	三池
	やさしい寄せ植えとガーデニングボラン ティア養成講座(手鎌地区公民館・明治小)	18人		—	手鎌
	学校サポーターはじめの一步講座 (駿馬北小・駿馬南小)	18人	ボランティアグループ「駿馬ミ シンクラブ」発足(8人)	—	駿馬
H27	小学校でミシンボランティアをしてみよ う！(大牟田小)	15人	ボランティアグループ「なでし こ」発足(10人)	H27～	中央
	ボランティア養成講座 ～心と技を学ぶ！書道～(三川地区公民館)	15人	ボランティアグループ「花鳥風 月」発足(14人)	H29～	三川
	ミシンサポーター養成講座 ～in 天の原小学校～	15人	ボランティアグループ「どんぐ り」発足(11人)	H27～	勝立
	ミシンの時間お助け隊～吉野小～	14人	まなばんかん登録団体「布れ愛 工房」へ8人入会	(H23～)	吉野
	折り紙ボランティア養成講座 (三池地区公民館)	15人	ボランティアグループ「折り紙 ボランティアサークル『ひまわ り』」発足(15人)	H30.10～	三池
	野菜をつくろう！菜園ボランティア講座 (手鎌地区公民館)	20人	まなばんかん登録団体「手鎌は ばたん会」へ9人入会	(H19～)	手鎌
	育てよう花と緑！学校花壇ボランティア講 座(駿馬北小・駿馬南小)	10人	ボランティアグループ「花と緑 の会『菜の花』」発足(10人)	—	駿馬
H28	着物の着付けボランティア養成講座 (三川地区公民館)	17人	ボランティアグループ「着付け サークル『紬』」発足(3人)	H29.8～	三川
	笑顔ふくらむ！バルーンアート講座 (吉野学童、白銀保育園)	15人	ボランティアグループ「すまい るバルーン」発足(17人)	H28～	吉野
	裁縫ボランティア養成講座 (甘木山乳児院)	14人	ボランティアグループ「ぶらん けっと」発足(10人)	H28～	手鎌
H29	ミシンの時間応援隊 in 中友小学校	8人	ボランティアグループ「なかと もミシン」発足(9人)	H29～	中央
	書道ボランティア養成講座～豊かで穏やか な心と技を学ぼう～(玉川小)	14人	指導サークル「硯水会」へ1人 入会	—	勝立
	歌のボランティア養成講座 (平野公民館、サン久福木)	14人	ボランティアグループ「歌とあ そぼーい」発足(8人)	H29～	三池
	“心とからだの癒し”～健康の伝道師～ボラ ンティア講座(駿馬地区公民館)	16人	ボランティアグループ「健脚く らぶ」発足(13人)	—	駿馬

○ボランティアグループが発足して、「まなばんかん」へ登録した講座数……………計 11 講座

○ボランティアグループは発足しなかったが、「まなばんかん」登録団体へ加入した講座数…計 3 講座

○平成 30 年 12 月 1 日現在で「まなばんかん」に登録している団体数(加入団体を除く)……計 10 団体(※網掛け)

※「マナビ塾」については、96 頁参照

(3) ふるさと大牟田を知る取組み〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

今回の調査では、健康づくりや趣味、子育てなどの日常生活に身近なことを学び、日常生活や地域活動などの身近な活動に活かしている人が多いことが明らかになりました。身近なことを学べるよう、多様なかたちで数多くの学習機会が提供できる仕組みづくりも課題となっています。また、本市の歴史やゆかりのある人物、史跡、自然など、一般的に広く知られているとはいいがたい地域資源も多くあります。

そこで、身近な地域のことを学ぶ学習機会として、ふるさと大牟田のことを知る取組みを充実させる必要があると考えます。まずは、世界遺産本登録を目指した取組みが進められていることから、近代化遺産を学習する機会にあわせて、地域の文化財や自然、景観、伝統文化なども一緒に学習するような講座を充実していきます。また、地区公民館の講座を通じ一部の地域で行われている「〇〇地域お宝マップ」や地域資源をめぐるウォークラリーなどの、地域のことを学び、魅力を再発見する事業を他の地域や市全域に広げていくことも必要です。

将来的には、大牟田のことを市民が親しみやすく、楽しく学べる成人向けの「大牟田検定」の取組みや、歴史を学びまちづくりに生かす「大牟田学」の検討を進めていきます。

※ 2

※ 2 「大牟田学」…近年、地域の名前を冠した地域学と呼ばれる活動が全国各地で盛んになってきている。自分の住む地域の歴史や文化、産業、自然などを見つめ直し、地域の魅力や可能性を発掘しようとするもの。

【取組状況・実績】

平成 25 年度から 3 か年にわたり、市民の郷土に対する愛着や誇りを醸成し、市民主体のまちづくり活動を促進することを目的とした「ふるさと大牟田講座」を全地区公民館で実施しました。

7 地区公民館において、それぞれ「祭り・行事」、「近代化産業遺産」、「産業」、「自然」、「地域の歴史」、「史跡・名所」、「文化・人」のテーマを設定し、講義はもとより、現地見学や体験、さらには文献を調べるなど、受講者同士で郷土について学び合い（延べ受講者数 680 人）、それら大牟田の魅力を市民の皆さんへ伝えるために、受講者自ら、冊子、マップ、郷土カルタなどの成果物を制作しました（成果物は、大牟田市立図書館及び 7 地区公民館の郷土史コーナーに配架されています〔貸出可能〕）。

また、これらの成果物は、地区公民館の他の主催事業（地域魅力アップ支援事業：地域巡りのガイド）やサークル連絡会の研修会をはじめ、小学校の授業（総合学習）、子どもの居場所（カルタ大会）などで活用されています（平成 29 年度末現在で延べ 10 事業（延べ参加者数 783 人）で活用）。

なお、市民の郷土愛や都市への誇りを育む取組みとしては、「ふるさと大牟田講座」以外に、従前より実施していた「地域魅力アップ支援事業（平成 20～27 年度）・地域力アップ支援事業（平成 28 年度～）」において“小学校区単位”で郷土の魅力を掘り起こす取組みを展開しており、地域のお宝マップの作成やウォーキングなどを実施しました（平成 24 年度から平成 29 年度にかけて全 19 事業実施）。その他にも、一般成人事業などでふるさと大牟田を知る取組みを実施しました（平成 24 年度から 29 年度にかけて 6 事業）。

【課題等】

平成 29 年度は、地域の歴史や文化を学ぶ講座を実施している地区公民館が 1 館に留まっていることから、今後はより多くの地区公民館において、郷土の魅力を再発見する取組みを展開することが必要です。

<ふるさと大牟田講座>

担当 地区館	テーマ	年度	講 座 名	受 講 者 数	郷土愛が 深まった 人の割合	成果等
中央	祭り・行事	H25	おおむた歳時記～祭りの向こうに見えるわが郷土（まち）～	27人	76%	○サークル研修会における学習発表（H28.2） 参加者 40人
		H26	あなたの知らない大蛇山	35人	90%	
		H27	おおむたの祭り	21人	100%	
三川	近代化 産業遺産	H25	遺産が語る先人の想いを未来へ	26人	81%	○サークル研修会における学習発表（H27.5） 参加者 77人 ○天領校区地域魅力アップ支援事業におけるガイド（H28.1）参加者 36人 ◎「三川まちかど案内人の会」発足 （まなばんかん登録）
		H26	今日からあなたも“遺産まちかど案内人”	22人	100%	
		H27	今日からあなたも“遺産まちかど案内人”	21人	73%	
勝立	産業	H25	「おいしい大牟田」発見！	50人	71%	○サークル研修会における学習発表 ①H27.6 ②（H28.1） 参加者 計 68人
		H26	「あかるい大牟田」発見！	30人	100%	
		H27	「あらたな大牟田」発見！	52人	100%	
吉野	自然	H25	親子で探検！～ふるさと大牟田の豊かな自然～	10組 24人	64%	○サークル研修会における学習発表（H28.3） 参加者 40人
		H26	三池山の魅力を探ろう!!ふるさと大牟田の豊かな自然～	22人	82%	
		H27	三池山の魅力を探ろう!!ふるさと大牟田の豊かな自然 Part2～	15人	100%	
三池	特定の地域	H25	三池の歴史を知りつくす～三池藩の歴史と花薫る山寺巡り編～	50人	94%	○三池小学校児童、保護者へのガイド （H27.11）2回 参加者計 450人
		H26	三池の歴史を知りつくす～800年の時を刻む三池街道編～	51人	93%	
		H27	三池の歴史を知りつくす～江戸の面影を残す宿場町編～	51人	89%	
手鎌	史跡・名所	H25	大牟田市の神社を探る!パワースポット	36人	76%	○サークル研修会における学習発表（H27.6） 参加者 52人
		H26	大牟田市の神社を探る!あなたの身近なパワースポット	31人	95%	
		H27	大牟田市の神社を探る～郷土の歴史と史跡めぐり～	33人	100%	
駛馬	文化・人	H25	團琢磨の足跡からたどるおおむた再発見講座	38人	89%	○アンビシャス広場における「郷土カルタ大会」（H28.1） 参加者 20人
		H26	未来へ発進!～おおむた輝き人との出会い講座～	22人	70%	
		H27	おおむたの魅力をカルタにしよう～子どもたちに伝えたい大牟田の宝～	23人	91%	

<地域魅力アップ支援事業／一般成人事業／まなびの扉(ボランティア塾)>

年度	事業名	講座名等(校区)	担当 地区館
H24	地域魅力アップ支援 事業	天領校区八十八ヵ所めぐり実施講座パートⅡ(天領)	三川
		玉川お宝百景～記憶から記録へ～(玉川)	勝立
		吉野校区ウォーキングガイド作成(吉野)	吉野
		羽山台水辺探検隊～水辺のフィールドワーク～(羽山台)	三池
		探検!手録のあんなとここんなとこ&水鉄砲大会(手録)	手録
		ミステリー追跡ゲーム in 黒崎公園(手録)	
		わが町のお宝情報発信プロジェクト パート1 近代化遺産見学会 ～近代化遺産を見てみよう!歴史の空気を感じてみよう!～(駿馬北)	駿馬
	政治学級	近代化産業遺産に学ぶ～魅力的なまちづくりを目指して!～	三川
H25	地域魅力アップ支援 事業	天領校区八十八ヵ所めぐりパートⅢ(天領)	三川
		近代化遺産見学会(みなと)	
		玉川お宝百景～記憶から記録へ～(玉川)	勝立
		吉野歴史探訪・健康ウォーキング(吉野)	吉野
		羽山台水辺探検隊～水辺のフィールドワーク～(羽山台)	三池
		わが町のお宝情報発信プロジェクト パート2 スポーツごみ拾い in 宮原坑 (駿馬北)	駿馬
H26	地域魅力アップ支援 事業	時を越えて天領の魅力をつなぎ隊(天領)	三川
		わが町のお宝情報発信プロジェクト パート3 駿馬まち育てカフェ (駿馬北・駿馬南)	駿馬
	まなびの扉・ボラン ティア塾	地域の歴史ボランティアガイド養成講座	三池
H27	地域魅力アップ支援 事業	～時を越えて天領の魅力をつなぎ隊～楽しく学ぼう!わくわく石炭体験 (天領)	三川
		わが町のお宝情報発信プロジェクト 駿馬 machi なかおもてなし計画 ～駿馬 まち歩きガイド養成講座～(駿馬)	駿馬
H28	地域魅力アップ支援 事業	銀水校区地域づくりステップアップ支援事業	三池
		明治校区紙飛行機&〇×クイズ大会	手録
	一般成人事業	「つながる大牟田」発見!	勝立
		三池散歩 いにしへの寺社めぐり	三池
H29	一般成人事業	“みいけ”に出会おう!～伝統文化と歴史講座～	三池
		もっと知りたい!三池藩	
		おおむた御朱印めぐり	
		宗茂と直次	
	サークル社会参加促 進事業	子ども大牟田検定にチャレンジ	三池

(4) 市民に身近な場所で行う事業の拡充〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

今回の調査では、身近な場所での学習機会が求められていることが分かりました。

また、身近な地域で、子どもから高齢者まで誰もが集まり、互いに交流しながら学習活動及び学習成果を活かす活動を行う仕組みを、学校・家庭・地域が連携してつくることや、誘い合うことの効果、大切さを認識し学習活動に人を誘うなど、自然と「声をかけ合う」ことのできる気運づくりなどを行うことも課題となっていました。

そこで、地区公民館等の事業の一部を、小学校や町内公民館（建物）、地域交流施設で実施するなど、関係団体等と連携して、市民に身近な場所で行う事業を拡充していく必要があると考えます。そして、これらの取組みを、親しみのもてる継続的な取組みとするためには、子ども会や町内公民館、PTAなど、身近な圏域で活動する社会教育関係団体及び地域にある事業所等との協議を丁寧に行い、連携を図りながら実施することが重要です。

なお、子ども会や町内公民館の活動、子どもの居場所づくりなど、身近な圏域を対象とした地域住民の主体的な活動については、関係者との信頼関係の構築に努め、積極的に支援することが活動の促進に効果的だと思われます。

【取組状況・実績】

7 地区公民館はそれぞれ小学校単位で担当校区が設定されていますが、地区公民館がない校区の市民や地域団体にとって地区公民館は物理的・心理的に距離があるため、積極的に向いて地域住民・団体との関係や連携を深めるよう努め、学習機会の提供や地域づくりに資する取組みを展開する必要があります。

このため、離れた担当校区については、小・中学校、地域交流施設、町内公民館（自治公民館）等、住民に身近な施設を利用して、趣味・教養の講座、子どもの居場所、コンサート、防災講座などの出前講座や事業を実施しています。

特に、地区公民館の看板事業として校区単位で地域づくりを推進している「地域魅力アップ支援事業」は、地域からの要望、課題等を踏まえ、地域の歴史・自然・文化などに触れることで郷土の魅力を再発見する取組みや、防災、交通安全、認知症対策といった地域で安心・安全に暮らすための取組みなどを行っています。

平成 28 年度からは、コミュニティの再生、地域活動の後継者発掘・育成等の課題解決を図るため、事業の手法を一部見直し、地域担当職員や校区まちづくり協議会などとの連携を強化した「地域魅力アップ支援事業」を展開しています。このような取組みの結果、これまで各地区公民館の運営委員会（地域関係団体の代表や学校長などで構成）において、「出向いてもらい評判が良かった、好評だった」等、一定の評価を得ています。

【課題等】

平成 24 年度から平成 29 年度までの 6 年間に、地区公民館が離れた担当校区で実施した事業の数は延べ 60 事業で、年間平均 10 事業（1 館あたり 1.42 事業）となっています。各館の取組み状況に差が見られ、実施する校区の偏りや、一度も実施されていない校区もあることから、各館においては、積極的に担当校区のニーズや課題等を把握するよう努め、計画性や公平性のある事業展開を行うことが必要です。

なお、担当校区の社会教育関係団体、事業所等との連携や、学んだ成果を活かす仕組みづくりを行う点については、一部の校区を除いて、まだ不十分な状況にあります。

こうした課題を解決し、地区公民館が地域の拠点としての役割を果たすためには、関係課や関係機関・団体と意見交換や協議を行い、学んだ成果を活かす仕組みづくりの構築、さらには、各担当校区の地域づくりのための中・長期的な支援計画の樹立など、早急に対策を講じることが必要です。

<市民の身近な場所で実施した事業(地区公民館がない校区で実施した事業)>

年度	事業名	講座名等(会場)	担当地区館
H24	地域魅力アップ支援事業	○防災で広げよう地域のネットワーク(上官小)	中央
		○防災から考える地域ネットワーク作り 三校区合同防災訓練(勝立中)	勝立
		○地域活動に活かす!上内パソコン塾パートⅡ(上内小) ○地域で活かす!“楽・らく”パソコン塾(倉永小)	吉野
		○防災で広げよう地域のネットワーク(明治小)	手録
	子どもの居場所づくり支援事業	○出前子どもの居場所(天領小)	三川
H25	地域魅力アップ支援事業	○正しい交通ルールとマナーを再確認!交通安全教室(上官小)	中央
		○暮らしの安心・安全出前講座(天領小)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(勝立中)	勝立
		○地域活動に活かす!上内パソコン塾パートⅢ(上内小) ○地域で活かす!“楽・らく”パソコン塾(倉永小)	吉野
		○防災で広げよう!地域のネットワーク(明治小、えるる、明治会館)	手録
	一般成人事業	○ころばぬ先の体力測定(飯田町公民館、一部町公民館)※駿馬北校区でも実施	駿馬
	家庭教育支援事業	○よしのdeセミナー 家庭の絆ふかまるスクラップブック教室(元村公民館)	吉野
H26	地域魅力アップ支援事業	○正しい交通ルールとマナーを再確認!交通安全教室(上官小)	中央
		○防災から考える地域ネットワーク作り(日明公民館・土穴公民館・地域交流広場いちの)	勝立
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(勝立中)	
		○みんなでつくろう!安心・安全な上内(上内小) ○地域がつながる!倉永タブレット講座(小規模多機能施設わたぜ)	吉野
		○銀水校区防災から始めるまちづくり Vol.2(銀水小) ○高取校区ふれあい交流支援事業(高取小)	三池
	家庭教育支援事業	○よしのdeセミナー ママコリ解消講座(高田公民館)	吉野
	生涯青春まなびの扉(ボランティア塾)	○集まれ!ミシンボランティア in 平原小(平原小)	中央
		○いきいきミシン応援隊(天領小)	三川
		○習字の時間お助け隊 パートⅡ~倉永小~(倉永小)	吉野
		○やさしい寄せ植えとガーデニングボランティア養成講座(明治小)	手録
		○学校サポーターはじめての一步講座(駿馬南小)※駿馬北小でも実施	駿馬
H27	地域魅力アップ支援事業	○はじめてのスマートフォン&タブレット入門講座 in 中友(中友小)	中央
		○防災から考える地域ネットワーク作り(教楽来・山口・薬師丸公民館)・ ○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(勝立中)	勝立
		○家族を守る!万が一にそなえる上内防災マップ作り(上内小) ○地域でつながる!倉永タブレット講座Part2(倉永校区コミュニティセンター)	吉野
		○子どもが輝く地域づくり(明治会館)	手録
		○高取校区ふれあい交流支援事業(高取小)	三池
	生涯青春まなびの扉(ボランティア塾)	○育てよう花と緑!学校花壇ボランティア講座(駿馬南小)	駿馬

年度	事業名	講座名等（会場）	担当 地区館
H28	地域力アップ支援事業	○認知症になってもだいじょうぶ～明日のあなたのために～（通町2丁目東・通町1丁目公民館） ○知っておくとよい葬儀や終活のお話（県営住宅小浜第2団地集会所）	中央
		○天領校区防災運動会（天領小）	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り（黒尾公民館、善徳自治会、玉川小） ○勝立地区（二校区）合同防災訓練～防災運動会～（勝立中）	勝立
		○上内校区災害図上訓練（上内小学校） ○スマートフォンデビュー塾（倉永校区コミュニティセンター）	吉野
		○明治校区紙飛行機&〇×クイズ大会（明治小学校）	手鎌
		○高取校区まち協設立へ向けてのヒントをつかもう（高取団地公民館、銀水コミュニティセンター、旧三井港倶楽部）	三池
		○銀水校区地域づくりステップアップ支援事業（久留米市安武校区コミュニティセンター、久留米市柴刈校区コミュニティセンター）	
H29	地域力アップ支援事業	○認知症になってもだいじょうぶ～明日のあなたのために～（亀甲町公民館、瓦町公民館、総合福祉センター、龍湖瀬市住集会所） ○大正校区の防災を学ぶ（大正校区コミュニティセンター）	中央
		○天領校区まちづくり協議会設立5周年記念 第2回防災運動会・ふれあい音楽祭（天領小・天領校区コミュニティセンター）	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 玉川校区（中原・本村・上高田・上池谷公民館）防災訓練（中原公民館）	勝立
		○上内校区防災訓練（上内小学校） ○スマートフォンデビュー塾 Part2（倉永校区コミュニティセンター）	吉野
		○4校区座談会（銀水校区コミュニティセンター）	三池
		○防災からはじめるまちづくり（草木上公民館）	
		○「子供の遊び場」実施支援（銀水校区コミュニティセンター）	
		○防災からはじめる地域のきずなづくり（高取小）	駿馬
		○防災講演会&ベタンク大会（駿馬南小）	
	生涯青春まなびの扉 （ボランティア塾）	○ミシンの時間応援隊 in 中友小学校（中友小）	中央
		○書道ボランティア養成講座～豊かで穏やかな心と技を学ぼう～（玉川小）	勝立
		○歌のボランティア養成講座（久福木サン荘）	三池
	一般成人事業	○おおむた御朱印めぐり（普光寺・草木八幡宮、大牟田神社、駿馬天満宮）	三池

(5) 学習情報センター機能の拡充

①学習相談の窓口としての機能の強化

〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)・生涯学習課(生涯学習担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

現在、社会教育機関で実施する講座やイベントを把握し、学習相談に応じる取組みを行っていますが、市民のニーズに応えるには、これをさらに強化する必要があります。

まず、学習相談の窓口としては生涯学習課が適当であることから、生涯学習課が保有する学習情報の量を増やすことが必要です。現在、各課・機関が保有する学習情報を集約するとともに、それらの情報をデータベース化し、地区公民館をはじめとする社会教育機関等と共有することを検討します。

将来的には、民間事業者が行う学習関連事業の情報も収集・整備することも検討を進めます。

【取組状況】

市民が自発的に生涯にわたって学習に取り組む、心豊かに自分らしく生きていける“まち”にするためには、行政が主催する取組みはもとより関係機関や民間において行われる各種講座やイベントなどに関する情報も広く市民に周知することが望まれます。このため、学習情報誌「まなびのカatalog」（平成 19 年創刊：奇数月発行）の内容をより充実させるために、社会教育施設のみならず、庁内や高等教育機関、企業・事業所、任意団体等において行われる各種講座、イベント（講演会、展示会、コンサート等）、会員募集などに関する情報を定期的に収集し、学習情報誌、メールマガジン等を介して、市内における様々な学習情報を市民や関係機関・団体等へ周知するよう努めています。

なお、平成 25 年 4 月の機構改革により、教育委員会生涯学習課の“生涯学習担当”と“社会教育担当”は、それぞれ市長部局である市民協働部の生涯学習課（延命庁舎）と地域コミュニティ推進課（本庁舎）に別れ、社会教育主事が地域コミュニティ推進課に配置されたことなどから、平成 25 年度から各種講座・イベントに関する情報発信や学習相談は個々に行っています。随時、関係課において、市内における様々な学習・活動に関する情報の共有化に努めており、報告書「大牟田の教育」において紙面での集約は行っているものの、データベース化には至っていません。

【課題等】

「2018 年版情報通信白書」（総務省）によると、近年、スマートフォンやタブレットなどの情報通信機器の普及により、インターネット利用率は 10 代後半から 50 代は 90% 以上におよび、また、60 歳以上の増加が顕著となっています。市民がより詳細でわかり易く学習情報を得られ、学習活動に取り組むやすい環境を整えるためには、できるだけ早急に地域コミュニティ推進課と生涯学習課が連携して様々な情報を一元管理する仕組みを構築し、“学習情報のデータベース化”と“インターネットを介した情報発信”を行うことが必要です。

【注意】平成 25 年 4 月の機構改革により、社会教育機関の統括（「社会教育事業計画」策定等）は、生涯学習課から地域コミュニティ推進課（社会教育担当）へ移管されました。

②わかりやすくて確かな情報提供〔生涯学習課(生涯学習担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

市民の情報取得手段は、性別や年代によって様々です。例えば、女性や高齢者層は、回覧板や地区公民館だよりをはじめとする「紙面」を活用する割合が高く、男性や 39 歳以下の若年層は、インターネットを活用して取得する割合が高くなっています。学習情報を適切に届けるには、紙面による提供の拡充を図るとともに、インターネットなどを活用した方法を検討していく必要があると考えます。

また、学習意欲を潜在的に保有しているが学習活動を行っていない人や、居住年数が短いことにより情報取得手段が少ない人の目にも容易に触れるものとなるような手段の研究が必要です。

【取組状況・実績】

紙面による学習情報の提供は、学習情報誌「まなびのカatalog」をはじめ、「地区公民館だより」、大牟田文化会館情報誌「ゆにぞん」、子育て情報誌「おおむたっ子」、図書館だより「0li0li (オリオリ)」などを定期的に発行しており、発行回数・部数は平成 23 年度と比べて増加しています。また、必要に応じて、「広報おおむた」やポスター・チラシなどで、随時、周知を図っています。なお、職員研修を実施して、高齢者にも見やすくわかりやすい紙面づくりに努めています。

一方、インターネットなどを活用した情報発信については、市のホームページに講座・イベント情報等、施設利用の案内、サークル一覧表等の掲載はもとより、「愛情ねっと」(地域 SNS) や「FM たんと」(コミュニティ FM: 平成 28 年 7 月開局) を活用して様々な学習情報を提供しています。

(その他の取組み)

- ・平成 24 年度～ 学習情報誌「まなびのカatalog」のメールマガジンを隔月配信
- ・平成 26 年度～ 大牟田市市民活動等多目的交流施設「えるる」のフェイスブック開設
- ・平成 30 年 4 月～ 「生涯学習ボランティア登録派遣事業(まなばんかん)」のプロモーションビデオを YouTube で配信
- ・平成 30 年 11 月～ 「メニューいろいろまちづくり出前講座」(市職員出前講座)のプロモーションビデオを YouTube で配信

【課題等】

他都市においては、インターネットを活用して、月別・分野別・主催者別に学習情報をわかりやすく提供し、また、社会教育施設の部屋の空き状況等を確認できる自治体も見受けられます。スマートフォンなどの情報通信機器の普及により、インターネットで学習情報を得る人が増えることが見込まれるため、今後は、インターネットによる情報発信の在り方を見直し、市民が学習情報をより容易に、かつ、詳細に得られるよう、工夫や改善を講じる必要があります。

<主な情報誌の発行状況>

課名・施設名	情報誌名	発行回数（発行部数）	
		H23 年度	H29 年度
生涯学習課	学習情報誌「まなびのカatalog」 ※3	年 6 回（5,000 部／回）	年 6 回（2,000 部／回）
生涯学習課	子育て情報誌「おおむたっ子」	年 3 回（11,500 部／回）	年 3 回（11,500 部／回）
大牟田文化会館	文化会館情報誌「ゆにぞん」	年 6 回（5,000 部／回）	年 6 回（5,000 部／回）
大牟田市市民活動多目的交流施設「えるる」	月刊「えるる」 ※4	—	年 12 回（230 部／回）
大牟田市立図書館	図書館だより「01i01i（オリオリ）」	年 4 回（153 部＋ α ／回）	年 4 回（260 部＋ α ／回）
スポーツ推進室	大牟田市スポーツカレンダー ※5	—	年 1 回（18,000 部）
中央地区公民館	中央地区公民館だより	年 4 回（1,000 部／回）	年 6 回（1,300 部／回）
三川地区公民館	みかわ地域だより	年 3 回（700 部／回）	年 4 回（1,300 部／回）
勝立地区公民館	勝立地区公民館だより	年 3 回（計 4,300 部）	年 4 回（計 7,900 部）
三池地区公民館	三池地区公民館だより	年 3 回（700 部／回）	年 5 回（2,300 部／回）
吉野地区公民館	吉野地区公民館だより	年 3 回（250 部／回）	年 4 回（550 部／回）
手鎌地区公民館	手鎌地区公民館だより	年 3 回（500 部／回）	年 4～5 回（680 部／回）
駿馬地区公民館	駿馬地区公民館だより	年 4 回（450 部／回）	年 4 回（1,000 部／回）

※3 学習情報誌「まなびのカatalog」…平成 28 年度から部数削減（地域から要請有）

※4 月刊「えるる」……………平成 29 年 4 月創刊

※5 大牟田市スポーツカレンダー……平成 25 年度創刊

※ 3

(6) 職員研修の充実

① 社会教育機関の職員に必要な能力の向上〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

一般的に、社会教育関係職員に求められる具体的な役割や機能としては、地域の学習課題やニーズの把握・分析、企画立案や関係機関との連絡・調整等があげられています。この中でも特に、社会教育機関の職員には、人と人、人と団体、情報などをつなぎ、具体的な活動を触発していくコーディネーターとしての役割を果たすことが重要だと考えられています。

コーディネーターとしての力を高めるためには、社会教育に関する理念的な研修とともに、聞く・話す・共感するなどのコミュニケーション能力に関する研修や、ファシリテーション研修等、実践力を養う研修が効果的だと考えられますので、このような研修を行います。また、即戦力の養成が求められる新任職員研修を、より実践的な内容で実施することも必要です。

【取組状況・実績】

公民館主事においては、社会教育分野の専門的知識を習得するとともに、自治体職員として接遇・人権・男女共同参画・情報セキュリティ等の基礎的知識の習得についても求められていることから、毎月第1月曜日の休館日を活用して、前述の専門的・基礎的知識のほか、他都市への視察研修を企画し実施するといった公民館職員研修会を行っています。

なお、「公民館の職員の研修に関する実態調査報告書（平成 21 年：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター）によると、公民館職員への研修事業を実施している市町村は、全国で3割程度であり、そのうち年間1事業の実施に留まっている市町村が4割を占めています。この状況を踏まえると、本市の研修体制は充実していると言えます。

また、社会教育関係職員に関する研修は、社会教育の理念や動向・考え方から広報や安全管理面といった実務的なものまで幅広いテーマで、原則年1回程度実施しています。

近年は、スキル向上を目指し、福岡県立社会教育総合センターや南筑後教育事務所が実施するファシリテーション力やコミュニケーション力に関する研修へ積極的に参加しています。

【課題等】

今後は、本市でも社会教育関係職員研修や公民館職員研修会でこのような実践的な研修を企画・実施していきます。

<公民館職員研修会(抜粋)>

(対象者:公民館職員 29 人)

年度	内 容
H24	接遇研修
	男女共同参画の視点によるチラシづくりについて
	情報セキュリティ研修、個人情報保護研修
H25	接遇研修
	情報セキュリティ研修、個人情報保護研修
	第2次おおむた男女共同参画プラン
H27	個人番号関係事務について
	日田市公民館について(※日田市公民館職員との意見交換会 会場:大牟田市)
H29	情報セキュリティポリシーについて、マイナンバーの取り扱いについて
	視察研修(佐賀市)

<社会教育関係職員研修会>

年度	内 容	参加者	備 考
H24	子どもの体験活動事業の必要性和安全管理	22 人	
H25	今 社会教育関係職員に求められていること	26 人	
	地域課題解決に向けた取組事例と社会教育職員の関わり方	23 人	
H26	私たちの仕事と「生涯学習」のつながり ～生涯学習入門～	47 人	生涯学習まちづくり研修会と合わせて開催
	行列のできる講座とチラシの作り方	46 人	公民館主事会 (現公民館職員研修会と合わせて開催)
H27	私たちの仕事の中での生涯学習・社会教育 ～生涯学習社会の実現を目指して～	50 人	生涯学習まちづくり研修会と合わせて開催
H28	子ども事業における安全管理、危険予知トレーニング	26 人	公民館職員研修会と合わせて開催

<ファシリテーション力やコミュニケーション力を高める研修の参加状況>

年度	内 容	参加者	実施主体等
H24	信頼関係を結ぶコミュニケーション術	22 人	公民館主事会(現公民館職員研修会)
H25	学校と地域を結ぶコーディネーターセミナー	1 人	福岡県立社会教育総合センター
H26	学校と地域を結ぶコーディネーターセミナー	1 人	福岡県立社会教育総合センター
H28	ファシリテーション力養成講座	3 人	福岡県立社会教育総合センター
	コミュニケーション力養成講座	6 人	福岡県立社会教育総合センター
H29	ファシリテーション力養成講座	3 人	福岡県立社会教育総合センター
	コミュニケーション力養成講座	2 人	福岡県立社会教育総合センター

②「聴く」活動〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

今回実施したインタビュー調査に当たった職員からは、「生々しい体験談を聴くことができ、勉強になった」、「親近感がわいた」、「事業が役立っていると感じられた」などの意見が寄せられました。よく顔を合わせている人でも、それまでの人生での体験や積み重ねた経験、考え方を聞く機会はあまりないことから、「聴く」活動の大切さが実感できるとともに、業務の手ごたえを感じる機会にもなりました。

今回の調査研究での取組みは、社会教育関係職員の糧となっていることから、課題に応じたテーマを設定し、「聴く」活動を職員研修として継続的に行います。

【取組状況・実績】

地区公民館が、担当校区における地域課題の解決や市民から愛される施設づくりを目指すうえで、地域の住民をはじめ、公民館の利用者、関係団体等とコミュニケーションを図ることや信頼関係を築くことは大変重要です。

公民館主事会（現公民館職員研修会）では、地区公民館職員の“聴く力”のスキルアップを図るため、平成 24 年度にコミュニケーションのノウハウを身につけるための研修を実施しました。

また、近年では、福岡県立社会教育総合センターにおいて開催されるコミュニケーション力養成講座（社会教育施設職員等を対象にした研修）などへ公民館職員を派遣し、外部の教育力を活用しています。受講した職員からは、「相手との信頼関係を築き関係性を深めることなどを学べた」、「聴くことの大切さや必要性を認識した」といった意見が寄せられました。

なお、今回の調査研究の一環である、学習活動を行っていない人（できない人）を対象としたインタビュー調査「生涯学習促進に関する意識調査」を、社会教育関係職員の“聴く力”のスキルアップ研修に位置づけ実施しました。嘱託員を含む多くの職員が、市役所の窓口や大型商業施設で不特定多数の人々にインタビューを行ったことで、“聴く力”を磨くことができました。

【課題等】

公民館職員が、地域課題の解決や地域づくりを行うためには、より実践的なスキルの習得・向上が望まれます。今後は“聴く力”に加え、“コーディネーター”や“ファシリテーター”としての知識・技術を高めるための研修を継続的に実施し、公民館職員の資質の向上を図ることが重要です。

<「聴く」スキルの向上を図るための研修(実績)>

年度	研 修 名	参加者	実施主体等
H24	信頼関係を結ぶコミュニケーション術	22 人	公民館主事会(現公民館職員研修会)
H28	コミュニケーション力養成講座	6 人	福岡県立社会教育総合センター
H29	コミュニケーション力養成講座	2 人	福岡県立社会教育総合センター

(7) 地域の絆を育む取組み～東日本大震災に学ぶ～

① 地域の絆を育む取組み〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

地域の課題を住民が共有し、解決に向けて集まり、知恵を出し合い、学習し、目標をたて、活動を行う過程において、人と人との絆が生まれ、関わり合いながら生活を営んでいく地域社会が形成されます。このような社会教育の実践は、地域の教育力を向上させるだけでなく、「地域の絆を育む」地域づくりそのものであるといえます。

今回の東日本大震災の教訓を踏まえると、「地域の絆を育む」取組みをこれまでより重く捉え、事業を展開することが必要です。そこで、絆をつくり、絆を深めることのできる内容にするという視点から、地域魅力アップ支援事業や町内公民館の社会教育活動の支援、子どもを中心とした地域教育力の向上に関する事業等の充実が必要です。

【取組状況・実績】

※6

平成 24 年度から平成 27 年度までは「地域魅力アップ支援事業」67 事業（うち防災関連 20 事業）、平成 28 年度から平成 29 年度までは「地域力アップ支援事業」37 事業（うち防災関連 14 事業）を実施しています。

住民の関心の高い防災関連の事業においては、公民館が働きかけたことで防災訓練が始まった校区もあります。防災訓練を実施する際には、地域住民が集まり、要援護者への声かけ方法について議論するなど、地域の課題を共有する過程において、人と人との絆が生まれており、地域が主体的に防災をテーマに学習に取り組むことでコミュニティ再生の意識の醸成に努めています。

また、平成 30 年 3 月に文部科学省の優良公民館表彰を受賞した「～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト」（吉野地区公民館）をはじめ、地域の課題解決や郷土の歴史、人物などの地域資源に着目した事業や、町内公民館（自治公民館）の社会教育活動の支援などを通して、地域住民同士のネットワークや絆が育まれるよう努めています。

【課題等】

土曜日に地域のボランティアが開催している「子どもの居場所づくり支援事業」や、子ども達が自分達の力で家事などを行いながら通学する「通学合宿支援事業」、地区公民館で開設されている地域のボランティアによる「子育てふれあい広場」やサークルによる小学校の総合学習におけるボランティア支援など、地域の絆を育む取組みは広がりを見せていますが、ボランティアの高齢化、固定化など地域の人材発掘が課題となっています。

また、地域住民が一体となって取組む祭りなどの地域行事については、地区公民館が学校、PTA、地域の団体などと地域住民を結ぶ地域づくりの拠点としての機能を果たすことが重要です。

今後も、地域住民が、地域の絆の大切さに気づき、コミュニティ再生への動機付けにつながるよう、学校を核とした地域づくりを目標に、地区公民館が“学校・家庭・地域”をつなぐコーディネーターとして機能することが、今後のコミュニティ再生につながっていくものと考えます。

※6 「地域魅力アップ支援事業」…地域課題解決、人材発掘により注力するため、平成 28 年度から、「地域力アップ支援事業」に事業名を変更しました。

＜地域の絆を育む取組み＞

年度	事業名	講座名等（校区）	担当 地区館
H24	地域魅力アップ 支援事業	○地域お助けパソコン講座（大牟田） ○防災で広げよう地域のネットワーク（上官）	中央
		○天領校区八十八カ所めぐり実施講座パートⅡ（天領） ○みなと校区暮らしの安心安全講座（みなと）	三川
		○玉川お宝百景～記憶から記録へ～（玉川） ○防災から考える地域ネットワーク作り 三校区合同防災訓練（笹原・天道・玉川） ○三校区の絆で作る勝立大蛇山	勝立
		○地域活動に活かす！上内パソコン塾パートⅡ（上内） ○地域で活かす！“楽・らく”パソコン塾（倉永） ○吉野校区ウォーキングガイド作成（吉野）	吉野
		○銀水校区町内公民館ネットワークリレー（銀水） ○羽山台水辺探検隊～水辺のフィールドワーク～（羽山台）	三池
		○防災で広げよう 地域のネットワーク（明治） ○探検！手鑑のあんなとこんなとこ＆水鉄砲大会（手鑑） ○ミステリー追跡ゲーム in 黒崎公園（手鑑） ○九州北部豪雨に学ぶ地域防災の大切さ（手鑑）	手鑑
		○わが町のお宝情報発信プロジェクトパート1 近代化遺産見学会～近代化遺産を見てみよう！歴史の空気を感じてみよう！（駛馬北） ○地域お助けパソコン講座（駛馬北） ○みんなで安心安全まちづくり いのちを守る防災研修会～笑顔でつながる安心安全なまちづくりを目指して～（駛馬北） ○みんなで安心安全まちづくり（駛馬南）	駛馬
H25	地域魅力アップ 支援事業	○正しい交通ルールとマナーを再確認！交通安全教室（上官） ○地域お助けパソコン講座（大牟田）	中央
		○天領校区八十八カ所めぐりパートⅢ（天領） ○近代化遺産見学会（みなと） ○暮らしの安心・安全出前講座（天領）	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練（天の原・玉川） ○玉川お宝百景～記憶から記録へ～（玉川） ○天の原小学校朝読ボランティア養成講座（天の原）	勝立
		○地域活動に活かす！上内パソコン塾パートⅢ（上内） ○地域で活かす！“楽・らく”パソコン塾2（倉永） ○吉野歴史探訪・健康ウォーキング（吉野）	吉野
		○銀水校区防災から始めるまちづくり（銀水） ○羽山台水辺探検隊～水辺のフィールドワーク～（羽山台）	三池
		○防災で広げよう！地域のネットワーク（明治） ○情報発信は地域から！地域の絆を深める広報誌講座（手鑑）	手鑑
		○わが町のお宝情報発信プロジェクト2 スポーツごみ拾い in 宮原坑（駛馬北） ○みんなで安心安全まちづくり（駛馬南）	駛馬
H26	地域魅力アップ 支援事業	○正しい交通ルールとマナーを再確認！交通安全教室（上官） ○地域お助けパソコン講座（大牟田）	中央
		○時を越えて天領の魅力をつなぎ隊（天領） ○楽しく笑って仲間づくり☆幸せづくり（みなと）	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り（天の原）（玉川） ○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練（天の原・玉川） ○勝立二校区の絆で作る勝立大蛇山（天の原・玉川） ○天の原校区パソコン講座（天の原）	勝立
		○みんなでつくろう！安心・安全な上内（上内） ○～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト（吉野） ○地域でつながる！倉永タブレット講座（倉永）	吉野
		○銀水校区防災から始めるまちづくり Vol.2（銀水） ○高取校区ふれあい交流支援事業（高取）	三池
		○子どもが輝く地域づくり（手鑑）	手鑑
		○わが町のお宝情報発信プロジェクト パート3 駛馬まち育てカフェ（駛馬北・駛馬南） ○みんなで安心安全まちづくり（駛馬南）	駛馬

年度	事業名	講座名等(校区)	担当 地区館
H27	地域魅力アップ 支援事業	○はじめてのスマートフォン&タブレット入門講座 in 中友(中友)	中央
		○時を越えて天領の魅力をつなぎ隊～楽しく学ぼう！わくわく石炭体験(天領) ○出前健康講座！明るく豊かな人生を♪(みなと)	三川
		○時を越えて天領の魅力をつなぎ隊～楽しく学ぼう！わくわく石炭体験(天領) ○出前健康講座！明るく豊かな人生を♪(みなと)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川) ○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川) ○勝立大蛇山まつりお囃子隊養成講座(天の原・玉川)	勝立
		○家族を守る！万が一にそなえる上内防災マップ作り(上内) ○～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト(ESD) Part2(吉野) ○地域でつながる！倉永タブレット講座 Part2(倉永)	吉野
		○高取校区ふれあい交流支援事業(高取)	三池
		○子どもが輝く地域づくり(手鎌) ○子どもが輝く地域づくり(明治)	手鎌
		○わが町のお宝情報発信プロジェクト 駿馬machi なかおもてなし計画～駿馬まち歩きガイド養成講座～(駿馬北・駿馬南) ○ころばぬ先の体力測定会(駿馬北・駿馬南)	駿馬
H28	地域力アップ 支援事業	○認知症になってもだいじょうぶ～明日のあなたのために～(平原) ○知っておくとよい葬儀や終活のお話(大正)	中央
		○みなと通信パソコン講座(みなと) ○夏休み宿題サポート隊体験講座(天領) ○天領校区防災運動会(天領)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川) ○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練(天の原・玉川) ○勝立大蛇山まつりお囃子隊養成講座(天の原・玉川)	勝立
		○上内校区災害図上訓練(上内) ○～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト(ESD) Part3(吉野) ○スマートフォンデビュー塾(倉永)	吉野
		○高取校区まち協設立へ向けてのヒントをつかもう(高取) ○銀水校区地域づくりステップアップ支援事業(銀水)	三池
		○子どもふれあい餅つき会(手鎌) ○明治校区紙飛行機&〇×クイズ大会(明治)	手鎌
		○駿馬北校区防災訓練(駿馬北) ○疑問解決！まち協調査隊(駿馬南)	駿馬
		○認知症になってもだいじょうぶ～明日のあなたのために～(平原) ○大正校区の防災を学ぶ(大正) ○交通安全講習会(大牟田中央)	中央
H29	地域力アップ 支援事業	○あなたにもできる防災活動～災害に対してみんなでできる備え～(みなと) ○天領校区まちづくり協議会設立5周年記念 第2回防災運動会・ふれあい音楽祭(天領)	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り(天の原)(玉川) ○広報力アップ講座・基礎編(天の原・玉川) ○広報力アップ講座・実践編(天の原) ○広報力アップ講座(玉川) ○勝立大蛇山まつりお囃子隊養成ステップアップ講座(天の原・玉川)	勝立
		○上内校区防災訓練(上内) ○吉野校区イベントもりあげ隊スタッフ募集プロジェクト(吉野) ○スマートフォンデビュー塾 Part2(倉永)	吉野
		○防災からはじめるまちづくり～三池校区防災訓練～(三池) ○防災からはじめる地域の絆づくり(高取) ○「子供の遊び場」支援事業(銀水) ○防災からはじめるまちづくり(羽山台) ○4校区座談会(三池・高取・銀水・羽山台)	三池
		○ふれあい餅つき会(手鎌)	手鎌
		○「防災講演会&ベタンク大会」(駿馬北・駿馬南)	駿馬

② 災害に備える取組み〔地域コミュニティ推進課(社会教育担当)〕

【平成 23 年の提言内容】

本市の地区公民館等は、災害時の指定避難所及び自主避難所となっています。また、東日本大震災の被災地では、公民館が住民の避難所として重要な役割を果たしたという実績が報告されています。これまでも各地区公民館で避難所マニュアルを策定するなど、災害に備えてきましたが、改めて対策を強化する必要があります。そこで、これまでの災害対策を見直し、マニュアルの改訂や避難所開設訓練等の日常の防災活動の充実が必要です。

また、地区公民館等の社会教育機関の特徴は、地域住民に対して、日常の防災意識を高めるための防災学習が実施できることです。大きな自然災害が繰り返し発生している今、地域住民への防災学習は喫緊の課題であり、その学習機会の提供は社会教育行政に課せられた重要な役割ですので、子どもから高齢者まで、女性も男性も、あらゆる市民を対象にした防災講座の実施を検討します。

【取組状況・実績】

各地区公民館では、自主・指定避難所の運営に必要なマニュアルなどを具備していますが、大規模な災害（公民館職員が避難所に従事できない場合）を想定し、施設のことを知らない職員でも対応できるようマニュアルを改訂するなど、有事に備えた対策を講じています。

また、平成 24 年度から平成 25 年度にかけて「避難所運営マニュアル・開設訓練検討プロジェクトチーム」を設置し、地区公民館職員を中心に大規模な災害時における地区公民館の役割などについて協議・検討を行いました。

一方、平成 25 年度に「大牟田市地域防災計画」が改訂され、さらに、迅速な災害応急対策がとれるよう本市の防災対策室において「職員初動マニュアル」がまとめられたことから、有事の際は、それらの計画やマニュアルに基づき、関係課・機関と連携を図りながら、円滑な避難所の開設・運営に当たることとなっています。

『避難所の開設訓練』については、本市の防災対策室が毎年開催する避難所開設・運営に係る研修会へ参加し、また、公民館主事会（現公民館職員研修会）において HUG 訓練を実施するなど、有事の際に避難所としての機能を発揮できるよう努めているところです。

『地域の防災学習』については、全国的に地震、大雨等、比較的規模が大きい自然災害が毎年発生し、市民の防災・減災の意識が高まっていることから、平成 24 年度以降、防災に関する取組みを 17 校区において実施しています。いずれも、校区まちづくり協議会などの地域団体との協働により、「地域力アップ支援事業（地域魅力アップ支援事業）」の一環として実施しているところです。地区公民館によっては、地域の実情を踏まえ町内単位で細やかに防災に関する取組みを展開しているところもあります。

【課題等】

近年、大規模な自然災害が全国各地で発生していることを鑑み、各校区のまちづくり協議会や安心安全まちづくり推進協議会と連携して、できるだけ多くの地域で災害・減災の一助となる取組みを実施することが望まれます。

また、「自助・共助・公助」の視点からは、地域住民間で助け合う「共助」を重点的に位置づけ、取組みを進めることが重要です。

<防災学習・事業>

年度	事業名	講座名等（校区・会場）	担当 地区館
H24	地域魅力アップ 支援事業	○防災で広げよう地域のネットワーク（上官）	中央
		○みなと校区暮らしの安心安全講座（みなと）	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 三校区合同防災訓練（笹原・天道・玉川）	勝立
		○防災で広げよう 地域のネットワーク（明治）	手鎌
		○北部九州豪雨に学ぶ地域防災の大切さ（手鎌）	
		○みんなで安心安全まちづくり いのちを守る防災研修会～笑顔でつながる安心安全なまちづくりを目指して～（駿馬北）	駿馬
		○みんなで安心安全まちづくり（駿馬南）	
H25	地域魅力アップ 支援事業	○暮らしの安心・安全出前講座（天領）	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り 二校区合同防災訓練（天の原・玉川）	勝立
		○銀水校区防災から始めるまちづくり（銀水）	三池
		○防災で広げよう！地域のネットワーク（明治）	手鎌
		○みんなで安心安全まちづくり（駿馬南）	駿馬
H26	地域魅力アップ 支援事業	○防災から考える地域ネットワーク作り（天の原）（玉川） ○防災から考える地域のネットワーク作り 二校区合同防災訓練（天の原・玉川）	勝立
		○みんなでつくろう！安心・安全な上内（上内小学校）	吉野
		○銀水校区防災から始めるまちづくり Vol.2（銀水小学校）	三池
		○みんなで安心安全まちづくり（駿馬南）	駿馬
H27	地域魅力アップ 支援事業	○防災から考える地域ネットワーク作り（天の原）（玉川） ○防災から考える地域のネットワーク作り 二校区合同防災訓練（天の原・玉川）	勝立
		○家族を守る！万一にそなえる上内防災マップ作り（上内）	吉野
H28	地域力アップ 支援事業	○天領校区防災運動会（天領）	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り（天の原）（玉川） ○防災から考える地域のネットワーク作り 二校区合同防災訓練（天の原・玉川）	勝立
		○上内校区災害図上訓練（上内）	吉野
		○駿馬北校区防災訓練（駿馬北）	駿馬
H29	地域力アップ 支援事業	○大正校区の防災を学ぶ（大正）	中央
		○あなたにもできる防災活動～災害に対してみんなでできる備え～（みなと） ○天領校区まちづくり協議会設立 5 周年記念 第 2 回防災運動会・ふれあい音楽祭（天領）	三川
		○防災から考える地域ネットワーク作り（天の原）（玉川）	勝立
		○上内校区防災訓練（上内）	吉野
		○防災からはじめるまちづくり～三池校区防災訓練～（三池） ○防災からはじめる地域のきずなづくり（高取） ○防災からはじめるまちづくり（羽山台）	三池
		○防災講演会&ベタンク大会（駿馬北）（駿馬南）	駿馬

3. ローリング調査から見えてくるもの

(1) ボランティア活動や地域活動を担う人材の発掘・育成が必要

『社会教育機関等が行う取組み』及び『高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み』については、多くのボランティアグループやサークルが誕生しました。しかし、その多くが高齢者であるため、高齢化を起因とした様々な問題（メンバーの確保、後継者の育成等）が生じてきており、グループ・サークルの維持・継続が困難になることが課題として考えられます。

また、『地域の絆を育む取組み』については、子どもの居場所支援事業、通学合宿支援事業、子育てふれあい事業などにおいて地域のボランティアが活躍されていますが、こちらにおいても高齢化や参加者の固定化の問題が判明しました。

『青年自身が活躍の場をつくり出す取組み』については、青年の社会参加促進を目的に実施している事業が現代の若者とのニーズに沿っておらず、休止に至った事業もありました。

一方で、ボランティア活動に関する青年の関心は高いことから、地域の担い手となる若者をまちづくりや地域課題の解決に資する取組みに巻き込むための方策を検討する必要があります。

本市では、平成 22 年度から「大牟田市地域コミュニティ基本指針」に基づき、「校区まちづくり協議会」の設立を進めています（平成 30 年 4 月 1 日現在 19 校区中 17 校区設立）。

このような中、地域づくりについては、主体的・自発的な取組みを進めることが求められるものの後継者不足や活動の担い手不足といった課題が表面化しています。

このため、地区公民館等の社会教育機関は、世代間をつなぎ、ボランティア活動や地域活動を担う人材の発掘・育成に取り組んでいくことが必要です。

(2) 学習成果を活かす取組みとしての「ボランティア塾」の充実

『社会教育機関等が行う取組み』については、高齢者が教え、一般成人が学ぶ「マナビ塾」を実施し、29 のサークルが発足しました。しかし、“学習成果を活かす”点においては、社会や地域づくりに貢献しているサークルは 3 団体にとどまっています。

一方、『高齢者の学習成果を活かした活動を促す取組み』については、「ボランティア塾」において、延べ 28 講座で 17 のボランティアグループが発足し、そのうちの 10 グループが「生涯学習ボランティア登録派遣事業（まなばんかん）」に登録をして活動を行っています。

以上のことから、「ボランティア塾」は、市民が学んだ成果を活かすための取組みとして有効であるため、さらなる充実が必要と言えます。

(3) 郷土に対する愛着や誇りを育む取組みの充実

『ふるさと大牟田を知る取組み』については、7 地区公民館において平成 25 年から 3 か年にわたり「ふるさと大牟田講座」を実施し、市民が大牟田の歴史、文化、産業、自然など、様々な郷土の魅力に触れる機会を設けました。また、大牟田の魅力を広く市民に伝えるために受講生自ら制作した成果物は、様々なところで活用されています。

なかでも、三池地区公民館は、郷土の歴史や文化に関する学習活動を長年にわたって発展させてきた取組みが高く評価され、平成 29 年 3 月に文部科学省の優良公民館表彰を受賞しました。

郷土愛を育む取組みは、地域づくりの基本と言えますが、平成 29 年度は、地域の歴史や文化を学ぶ講座を実施している地区公民館は 1 館にとどまっていることから、今後はより多くの地区公民館において、地域への愛着を育む取組みを展開し、地域づくりへつなげる必要があります。

(4) 市民に身近な場所で行う事業の拡充が必要

『市民に身近な場所で行う事業の拡充』については、平成 24 年度から 29 年度までの 6 年間に、地区公民館から離れた担当校区で実施した事業が、1 館当たり年平均 1.42 事業となっており、実施する校区の偏りや一度も実施されていない校区もありました。

各地区公民館においては、担当校区の校区まちづくり協議会や町内公民館、PTAといった社会教育団体や地域交流施設との連携を強め、計画性や公平性のある事業展開を行うことが必要です。

(5) インターネットによる学習情報の提供の充実・強化

『学習相談の窓口としての機能の強化』及び『わかりやすく的確な情報提供』については、近年、スマートフォンやタブレットなどの情報通信機器の普及により、インターネット利用者が急速に増加していることを踏まえ、今後は、インターネットを活用した学習情報の提供を充実・強化する必要があります。

(6) 社会教育機関の職員のスキルアップを図る研修の充実

『職員研修の充実』については、社会教育関係職員に必要とされる「ファシリテーション力」・「コミュニケーション力」・「聴く力」に関する研修を、これまであまり実施していないことから、今後は、社会教育関係職員研修や公民館職員研修会で、このような研修を継続的に実施していく必要があります。

(7) 地域の絆を育む取組みの充実

『地域の絆を育む取組み』については、地区公民館において「地域力アップ支援事業」（平成 27 年度までは「地域魅力アップ支援事業」）を実施しています。

具体的なテーマとしては、近年、全国で多発している自然災害などの影響から住民の関心が高い防災関連の事業、タブレットやスマートフォンを活用し、行方不明者や子どもの見守り、防犯、災害時などの情報伝達を目的とした事業などがあり、地域住民の絆意識やコミュニティの再生意識の醸成に努めてきました。

このような中、吉野地区公民館では、吉野小学校の ESD 事業と連携し、吉野校区のコミュニティを再生するために「～さくらで繋ぐ～吉野小と地域の絆プロジェクト」を実施しました。この取組みでは、地区公民館が小学校と地域の架け橋となり、“学校・家庭・地域”が連携した仕組みが高く評価され、福岡県教育委員会が主催する「平成 27 年度南筑後地区市町公民館職員等研修会」、「平成 29 年度福岡県公民館大会」等で紹介されました。その結果、同地区公民館は、平成 30 年 3 月に文部科学省の優良公民館表彰を受賞しました。

このような“学校・家庭・地域”が連携した事業は、他の校区においても地域の絆を育む取組みとして展開させていくことが必要です。